

令和 6 年 6 月 24 日

東京保育専門学校
校長 榎本 勝己 殿

東京保育専門学校
学校関係者評価委員会

学校関係者評価委員会報告

令和 5 年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ①野上 秀子（東京都私立幼稚園連合会理事、私立久我山幼稚園園長）
- ②浜口 順子（お茶の水女子大学文教育学部人間社会科学科教授）
- ③加藤 路子（公益財団法人全国高等学校家庭科教育振興会事務局長）
- ④山本 祥子（れんげ桜が丘保育園園長、本校卒業生）
- ⑤松浦 栄子（私立サンタ・セシリア幼稚園園長）
- ⑥薄田 有希子（保育科 1 部在学学生保証人（保護者））
- ⑦中嶋 早苗（保育科 2 部在学学生保証人（保護者））
- ⑦横田 純二（横田公認会計士・税理士事務所所長）
- ⑧大沼 康（株式会社矢島工務店代表取締役、東京商工会議所杉並支部地域振興委員会
高円寺ブロック 副ブロック長）

2 学校関係者評価委員会の開催状況

- 第 1 回委員会 令和 5 年 11 月 21 日（オンライン会議）
- 第 2 回委員会 令和 6 年 3 月 25 日（オンライン会議）

3 学校関係者委員会報告

別紙のとおり

以上

I 重点目標について

1 重点目標について

重点目標について、目標達成されたものとそうでないものがあり、達成されなかったものについては引き続き次年度以降も取り組みが必要である。達成に向けたプロセスの改善をお願いしたい。

特筆すべき点として以下を挙げる。

- ・今回の報告にあるような充実した教育活動をもってしても、学生が集まらず、財務状況の健全化が進まないのは本当に大きなジレンマで、学校の内容を良くするだけでなく、また別の方策が必要だと感じた。
- ・ハラスメント防止宣言がどのような効果を生むかはわからないが、ハラスメント防止をもう一つ違う次元で考えていくことはこれからの大きな課題だと考える。保育者の資質を育てていくにあたって、指導とハラスメントの境界線がどこにあるのかなど、より現場目線での取り組みを進める必要がある。

II 各評価項目について

1 教育理念・目的・人材育成像

昨年度から引き続き、建学の精神、教育理念を明確にしており、それに基づく方針や目標設定があり、目標達成のために堅実な取り組みが行われていることを評価する。課題と感じられる部分もあるので、引き続き改善に取り組んでいただきたい。

特筆すべき点として、以下を挙げる。

- ・教育活動や支援に関して、組織体制を活かした活動が確認できた。報告を聞く限り、それぞれにそれなりの効果を出しているため、学生はかなり充実した学校生活を過ごしているのではないかという印象を受けた。

2 学校運営

昨年度の運営状況を踏まえ、より良い学校運営のため方針、事業計画が組み立てられており評価できる。

特筆すべき点として、以下を挙げる。

- ・生成 AI について、今後の授業の中でどのように活用していく、あるいは制限していくのか、教育的効果、影響を踏まえて議論していただき、方針を示した方が良い。

3 教育活動

理念・目的・育成人材像に沿って教育課程の編成が行われ、シラバスや履修カルテなどを活用し、計画的な教育活動が行われている。

特筆すべき点として、以下を挙げる。

- ・ミサや教養特別講座など、本校ならではの特色ある教育に取り組んでいる。
- ・職業教育を目的とした専門学校らしく、保育分野に特化したキャリア教育の取り組みが評価できる。
- ・保育園だけでなく幼稚園においても、子どもの主体性に非常に重きを置いた保育が特徴になってきている。そのような保育を実践していくためには、保育者自身が「主体性とは何か？」ということを理解し、また身をもって経験していることが大切だと考える。保育者にとって重要な資質として、保育者自身の主体性の獲得を促していただきたい。

4 学修成果

就職率、就職先選択肢の幅広さ、資格・免許の取得率、卒業生の社会的評価等からその学修成果は高く評価できる。

特筆すべき点として、以下を挙げる。

- ・ 公務員試験に向けてのサポート体制、実績は高く評価できる。

5 学生支援

学生への支援体制として、就職支援や学校生活上のサポート体制、学生相談の仕組み、経済的支援の制度が充実しており評価できる。一方、学生の視点に立つと改善が必要なところも見られるので、今後取り組んでほしい。

特筆すべき点として、以下を挙げる。

- ・就職活動に取り組む意識を高めるために、学校が勧めるだけではなく、本人の主体的な取り組みを見守っていく姿勢を大事にしているというのは、納得した就職を実現するためにも良いことだと思った。
- ・就職先を考える際に、就職して入職後 2～3 年の現役の先輩から直接話を聞ける機会などがあると、方向性を決めるのにより有効なのではないかと思う。
- ・中途退学者について家庭の事情等があったことだと思うが、学校に来られなくなる前に、教職員と話をできる機会を作ることができないか、引き続き取り組んでほしい。
- ・入学前の学校説明会でも就職後についての話をもっと聞ければ、先々をしっかり考えて入学してくる学生が増えて、退学する可能性も少なからず減るのではないかと思う。

6 教育環境

教育環境として、施設設備はもちろんであるが、現場実習の機会をしっかりと確保することができており、評価できる。

特筆すべき点として、以下を挙げる。

- ・ 課外活動や行事なども含め、学生同士の直接的コミュニケーションを多く使った取り組みをしていて、学校でいろいろな体験、特に学生自身が主体性を持って行う活動ができるのはいいことで、実習や就職後にもつながる資質向上が図れる環境を整えていると感じた。

7 学生の募集と受入れ

2024年度入学生の状況について、非常に厳しい結果となり、早急に対策が必要となっている。事実に基づく広報活動、適正な入試制度の運用等については、例年通りではあるが、しっかりと実施できており評価できる。

特筆すべき点として、以下を挙げる。

- ・ 高校訪問の数を増やす等、努力している中でも非常に生徒募集が厳しく、今後何らかの手を大きく加えていかないと、この状況を脱出することができないと思われる。
- ・ 高校の志願の傾向も変わっており、通信制高校に単願で申し込みをする生徒が全国的に増えている。これらも踏まえて、これまで以上に幅を広げて募集活動を行ってほしい。

8 財 務

学生数の減少に伴う収入減により、財務状況は悪化している。このような状況の中、経理室だけでなく、経営層を含んだ財務分析とそれを踏まえた対応方針を確立すべきであり、その点について大いに課題があると評価される。

特筆すべき点として、以下を挙げる。

- ・東京保育専門学校の評価報告書であるため、法人全体についてではなく、学校単独のキャッシュフローについて言及すべきであり、その上で学生数の減少による収入減に対する対策について具体的な記載が必要と考える。
- ・学生数の急減によるインパクトは相当に大きい。緊急性を要する課題であるため、具体的な目標を定め、実効性ある中長期計画を立案していただきたい。

9 法令等の遵守

関係法令に関する最新の情報を把握し、法令遵守の観点から適切な学校運営が行われている。

特筆すべき点として、以下を挙げる。

- ・個人情報管理について、SNS への投稿における学生写真の扱いについては、今後もソーシャルメディアポリシーに沿った運用をお願いしたい。

10 社会貢献・地域貢献

学校としての地域貢献の観点から、e ラーニング形式の公開講座などは活動として評価できる。一方新たな地域貢献の手法も検討していくことが必要になってきている。

特筆すべき点として、以下を挙げる。

- ・高円寺では年間を通じて4つの大きなイベントがあり、これらへの参画や、学校の広報活動の中で、これらの行事や高円寺という地域を紹介することなども地域貢献の一環として良いと思う。